

提出日：平成 24 年 1 月 17 日

高齢助産師における人生に影響を与えた人物の個人回想効果

The effect of individual life review about important person in elderly midwives

臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 1000-100714 土居照代

指導教員 長田 由紀子 教授

【問題と目的】

年を重ね、命に限りがあることを意識するようになると、人は過去に思いをめぐらせ自分の人生をふり返ることが多くなると言われている。従来、高齢者の過去への回想は、“老いの繰り言”や“現実からの逃避”などと否定的な心理過程として捉えられがちであったが、アメリカの精神科医バトラー（Butler, R.N., 1963）が、回想は死が近づいてくることにより誰にでも生じる自然な行為で、過去の未解決の課題をとらえ直し再統合に導く積極的な役割をもつと提唱して以来、肯定的な側面が注目されるようになった。その後、回想法は、欧米を中心に広がり臨床実践や研究が進められ、我が国でも高齢者に関わる医療・福祉・介護・心理等の様々な分野で取り入れられている。

これまでの回想研究のテーマはライフイベントに関するものが多く（津田, 2007; 野村, 1998; Wong&Watt, 1991）、人物をテーマにしたものはみあたらない。しかし、人は一生の間に多くの人物と出会い、さまざまな影響を受ける。したがって、過去の出来事だけでなく、過去に出会った人物に焦点をしばった回想についての研究が必要であると考えた。

一方、研究対象者は、これまでの多くは在宅高齢者、施設居住高齢者、デイサービス利用者、認知症やうつ病を有する高齢者、終末期ケアにある高齢者などであった（野村, 2001）。特定の職業に就いていた高齢者の研究としては、地域在住の退役軍人（25 名：平均年齢 85 歳）を対象にしたもの（McMahon, A.W. & Rhudick, P.J., 1964）があるが、他にはみあたらなかった。

本研究では、女性の専門職である助産師の話を聞く機会を得た際、命をこの世に送り出すことを仕事とし職業婦人としての先駆者でもある助産師が年を重ねた時、誰をどのように思い出すのであろうかということを考えた。これまでの研究では、助産師の活動史（灘, 2011）やその役割の研究（小林, 2008）、また、助産師自身の仕事意欲に影響を及ぼす要因（北川, 2011）や助産師教育における課題の研究（中本ら, 2009）等がある。しかし、

助産師自身が影響を受けた人物について語る回想研究はなされていない。

そこで、本研究では、高齢助産師を対象に“人生に影響を与えた人物”をテーマにした個人回想法を実施し、その回想内容を質的に分析するとともに、回想前後の心理的变化も合わせて検討することを目的とした。回想内容の分析と心理的効果を合わせて検証することは、高齢化社会を迎えた現代において、臨床現場だけでなく、高齢者がより健康で快適な日常生活を送るために地域社会の中でも役に立つ意義ある研究であると考える。

【方法】

65歳以上の高齢助産師11名（平均年齢76.9歳、標準偏差9.0歳）を対象に個人回想法の面接調査と回想前後の心理変化を測る質問紙調査を実施した。期間は、2011年5月から7月で、基本的に週1回の間隔で2回の半構造化面接を行った。人生に影響を与えたと思われる重要な人物を身内と身内以外から1人ずつ挙げてもらい、1セッション（1時間から1時間半）ごとに一人ずつ話を聞いた。尚、話は毎回許可を得てからICレコーダーに録音し、止めたい時は途中辞退もできることを伝えるなど十分に倫理的配慮をしながら進めた。個人回想法の質的分析には、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(modified grounded theory approach ; M-GTA)を採用した。また、心理的变化の測定には、主観的な気分状態を客観的かつ多面的に測定することができる気分調査票(坂野ら, 1994)、および現時点の自己に対する全体的な評価を測定することができ、状態自尊感情の変化があった時にはその変化もみることができる状態自尊感情尺度(阿部・今野, 2007)を使用した。合わせて、フェイスシートで年齢や健康状態などの情報を収集した。

【結果】

1. 面接前後の心理的变化

気分調査票の5つの下位尺度と状態自尊感情尺度の信頼性をCronbachの α 係数を用いて検討したのち分析に用いた。最初に、身内と身内以外共に話を聞くことができた9名の対象者の結果について、身内と身内以外に分けてプレテストとポストテストで対応のあるt検定を行った。また、「状態自尊感情」については、“ポジティブな人間関係”を想起した回想(14ケース)と“ネガティブな人間関係”を想起した回想(6ケース)の結果についても、プレテストとポストテストで対応のあるt検定を行った。その結果、身内の回想では「爽快感」($t(8)=-2.73, p<.05$)と「不安感」($t(8)=2.67, p<.05$)で有意差がみられ、

身内以外の回想では「爽快感」($t(8)=-2.24, p<.10$)と「疲労感」($t(8)=1.86, p<.10$)で有意傾向がみられた。「状態自尊感情」については、身内・身内以外共に有意差はみられなかったが、“ネガティブな人間関係”を想起した回想前後で有意傾向 ($t(5)=-2.21, p<.10$)がみられた。

2. 回想内容の質的分析

本研究では、分析テーマを「高齢助産師が人生に影響を与えた人物について回想する際のプロセス」とし、分析焦点者を「高齢助産師」とした。逐語化したデータから14の概念を生成し、概念間の関係を考え収束化して6つのカテゴリーを生成した。そして、その結果を概念間、カテゴリー間の関係を説明する結果図に表わし、その内容をストーリーラインとして文章で説明した。

全体のストーリーラインは次の通りである。(【 】内はカテゴリー名を、< >内は概念名を示す) 高齢助産師が自身に影響を与えた人物について回想する際には、【ポジティブな人間関係】を想起する場合(14 ケース)と、【ネガティブな人間関係】を想起する場合(6 ケース)に分かれた。ポジティブな人間関係を回想する場合は、その人物の<素晴らしい人間性>について語り、語り手にとって生き方の<目標となる人>になっていた。そして、その中には<助産師を目指すきっかけ>になったものもあった。ネガティブな人間関係を回想する場合は、<逆らえぬ人生の転機を与えた人>により自身の人生を操作され、自己決定できなかったことに対し<やりそこなったことへの後悔>が生じていた。しかし、どちらの人間関係からも<仕事を続ける上で助けられた>ことが語られ、【出会いが助けにつながった】と捉えられていた。その助けがあったおかげで助産師の仕事が続けられたと語られた。助産師の仕事は忙しく、私生活と両立をする上でも辛く大変な思いをしたが、【教えられたことを活かす】ことで乗り切ることができたようだ。多くの<苦労>があり助産師の仕事を辞めたいと思うことさえあったが、<その人物から学んだこと>が精神的にも実質的にも支えとなり仕事を続けることができたと捉えられていた。そして、その人物の回想をしたことが自身の人生についてふり返ることにもつながり、【その人物の影響の語りから人生の統合へ】と展開していった。その人物から得たものは意識的、無意識的に関わらず、<学んだことを自分の中にとり入れていった>ことで内在化し、子や孫、後進の助産師に<受け継いだことを伝えていく>ことが使命だと捉えられていた。また同時に、<人生をふり返り評価する>ことも行われ、<恵まれた人生であった>と肯定的に評価す

る場合と、＜結果的に良い人生であった＞と受容的に評価する場合に分かれた。人生に影響を与えた人物のことを語る過程が、自身の人生をふり返り評価することへと展開し、どちらの評価からも＜ありがたい思い＞が湧いて、最終的には【感謝の気持ちに至る】というプロセスがみられた。

【考察】

本研究では、高齢助産師に対し個人回想法を実施し、人生に影響を与えた人物について語る際の回想内容の質的分析と、回想前後の心理的变化を検討した。従来から回想内容の質的分析の重要性が指摘され、高齢者の回想類型を分類した研究は数多くあるが、回想内容のプロセスまで質的に分析されてきたとは言いがたい。本研究では、職業婦人の先駆者である助産師が年を重ね自身の人生をふり返る際、どのような人物を想起し、その影響についてどのように語るのか、その内容を M-GTA で分析することで回想過程の展開を明らかにした。

回想の過程においては、人生に影響を与えた人物についての語りが、自分自身の人生をふり返り自己についての語りへとつながっていくという展開がみられた。野村(2008)は、自己を語ることの機能として、①経験を組織化する、②人生を意味づける、③自我同一性を維持するということを挙げており、自己に密接に関わる一部経験を組織化するためには、それを語ることを要し、それぞれの発達段階における自我同一性の達成には、自己が生きてきた歴史の意味、今まさに自己が存在する意味や、これから生きていく意味への模索が含まれるとしている。本研究の回想調査の際に、対象者から「普段こんなに深くまとめて話したことはなかった。聞いてくれてありがとう。」といった感想が聞かれたことから、他者に語ることで経験が組織化され、人生を評価することで自身の人生を意味づけ、過去から現在、そして未来へと連なる時間軸のなかに、自己の連続性を見出す主観的な感覚である自我同一性の達成・維持へとつながったと考えられる。影響を与えた人物の想起は、ポジティブな人間関係とネガティブな人間関係に分かれたが、どちらからも学ぶことがあり、紆余曲折を経ながらも一貫した連続性をもち現在の自分へとつながっている。そして、ありがたさの意味には違いはあっても、感謝の気持ちに至ることで人生の統合へと結びついていた。

回想の前後での心理的効果としては、身内の回想では爽快感が増し、不安感が減少した。一方、先行研究(野村・橋本, 2000; 野村, 2009)で効果が報告されている自尊感情の改

善については、身内・身内以外の回想共に有意な効果はみられなかった。自尊感情に有意な変化がみられなかった理由としては、本研究の対象者が回想前から自尊感情が高かったことが考えられる。実際に先行研究（阿部・今野，2007）の自尊感情得点と比較したところ、本研究の対象者の平均値の方が高かった。また、「人が生まれ出た時に一番に出会うのが私たちである」、「二つの命を同時にあずかる責任のある仕事である」といった発言からも、誇りを持って仕事をしてきたことがうかがえた。

しかし、本研究の結果は、あくまで女性の専門職である助産師として仕事をしてきた高齢者の個人回想の結果であり、高齢者全般について言えるものではない。今後は、他の職業や職業の有無による違いも検討していく必要があると考える。また、野村・橋本（2001）の研究では、老年期の回想と適応度の関連に性差が認められていることから、男女差による検討が必要であろう。一方、テーマをライフイベントではなく人物に焦点をあてたことから、心理的变化を測定する指標も再検討する必要があると考える。本研究で明らかとなった結果がどれほどの高齢者に共通して適用し得るかを検証するためには、多様な高齢者を対象とした研究を継続して行う必要がある。

【参考・引用文献】

- 阿部美帆・今野裕之（2007）：状態自尊感情尺度の開発，パーソナリティ研究，**16**，36-46.
- Butler, R.N. (1963) : The life review : An interpretation of reminiscence in the aged. *Psychiatry*, **26**, 65-76.
- 小林美代子（2008）：助産婦が果たした役割と女たちとのかかわり ―昭和20年代に活躍した助産婦の語りから―，新潟青陵大学紀要，**8**，21-30.
- 黒川由紀子（2005）：回想法 ―高齢者の心理療法 誠信書房 pp 23-26.
- McMahon, A.W.& Rhudick, P.J. (1964) : Reminiscing : Adaptational significance in the aged. *Archives of General Psychiatry*, **10**, 292-298.
- 灘 久代（2011）：開業助産師，加納繁代姉の活動史，徳島文理大学研究紀要，**82**，91-96.
- 中本朋子・野崎美紀・重安日登美・柳美穂子・山下満枝（2009）：新人助産師の職場適応に影響する要因と助産師教育における課題，山口県立大学学術情報，**2**，48-52.
- 野村晴夫（2008）：自己を語ることを想起すること ―心理療法場面を手がかりとしたその機能関連の探索―，心理学評論，**51(1)**，99-113.
- 野村信威・橋本 宰（2000）：高齢者における回想の質と適応との関連について(6)，日本心理学会第64回大会発表論文集，991.
- 野村信威・橋本 宰（2001）：老年期における回想の質と適応との関連，発達心理学研究，**12(2)**，75-86.
- 野村信威（2009）：地域高齢者に対する個人回想法の自尊感情への効果の検討，心理学研究，**80(1)**，42-47.
- 野村豊子（1998）：回想法とライフレビュー ―その理論と技法― 中央法規 pp61-66.
- 野村豊子（2001）：回想法ハンドブック ―Q&Aによる計画，スキル，効果評価― 回想法・ライフレビュー研究会（編） pp 4-5.
- 坂野雄二・福井知美・熊野宏昭・堀江はるみ・川原健資・山本晴義・野村忍・末松弘行（1994）：新しい気分調査票の開発とその信頼性・妥当性の検討，心身医学，**34**，629-636.
- 津田理恵子（2007）：回想法への期待―実践研究から考える文献展望― 関西福祉学大学紀要，**11**，317-332.
- Wong,P.T.P.,&Watt,L.M., (1991) : What types of reminiscence are associated with successful aging ?, *Psychology and Aging*, **8**, 272-279.